

石垣の発掘作業の様子



推定
築城ライン

石垣（上段）
石垣（下段）

小牧山城

はつぐわら版

第5号

20140207

上下段石垣 検出中！ P・Q区

新しい年を迎え、小牧山の発掘調査現場でも担当者ならびに作業員一同、気持ちを新たに連日の作業に取り組んでいます。調査は昨年末から主郭の北西調査区（P・Q区）に広がり、地表面の堆積土と大量の転落石を取り除くに従い、次々と石垣が姿を現しつつあります。

ここまでで確認できたのは、重量2tクラスの巨石を



用いる上段と50cm角程の自然石を用いた下段、そしてその上下段の石垣をつなぐ平坦面です。主郭北西斜面は他の調査区と比較して石垣の残存状況が良好で、築城当時の外観をよく留めていると考えられます。信長をはじめ、当時の武将たちも目にした石垣そのものを、私たちもまた目にしていく…、さまざまな想像がふくらみます。

～上段と下段の石垣～

小牧山城で確認された上下2段の石垣を構成する石材の大きさには、歴然とした差があります。その理由のひとつとして、「視線」を意識していた可能性があります。右の模型写真にあるように、上下段石垣の間には通路状の平坦面があり、本丸への来訪者はここを通ったと考えられます。通路に立つ来城者にとって足元の下段石垣が目につきにくいのに、上段石垣の巨石は圧倒的な存在感を示すのです。



調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会

